

報 告

ボランティア活動による地域活性化の事例報告
土農工連携によるフルーツ&クラフトビレッジの創生

○平田勉*1 今井俊治*2、 瀧上逸樹*3

キーワード：農商工連携、土農工連携、地域活性化、産業創生

1. はじめに

地方都市への人口の流出により、中間山地域の山村や小規模集落は賑わいを失い、廃村は時間の問題となっている。大野晃が自治体の安定度を調べる指標に「存続集落」「準限界集落」「限界集落」それに「消滅集落」を提唱したが、ここで扱う問題は人口、個数ともゼロに近い消滅集落に該当するものである。¹⁾ この傾向は広島県の沿岸部である芸南地域、芸備地域に共通する特徴で、人口減、戸数減、耕地面積減が顕著なことである。特に、呉市、竹原市、東広島市の芸南地域の沿岸部に位置する山村に多く見られる。また、これらの問題は当該地域に係わるものではなく全国的に共通する課題でもある。

これらの消滅集落直前の地域や山村を活性化したい要請が地域住民からあり、その具体的な方策を講じるべき考察と実践を行ったので報告する。

農商工連携のノウハウを援用しながら、それに変わる筆者が提案する新しい手法である土農工連携によるオールシーズンの果樹栽培経営と当該地域固有の木・竹材料を活用したフルーツバスケット、スプーン等果樹専用のウッド&バンブークラフトの創作を行うことである。この活動は果物の収穫とものづくりにより、参加しながら人々が集うフルーツ&クラフトビレッジの創生を目指すものである。

2. 開発の方向性

三原市にある土木建設業の株式会社瀧上組、設備製造業の(有)遠矢エンジニアリング、竹原市に在住す

る果樹栽培技術専門家今井俊治氏に加え、本提案者である筆者は、芸南地域の山村に見られる沿岸部独特の狭隘で平地の少ない地域の具体的な活性化計画を模索していた。そのキッカケは平成22年10月、広島県竹原市に建設途上の「道の駅 たけはら(仮称)」に出品展示販売できる商品の開発を目指した。具体的には地域特性を生かしたフルーツとクラフトを作り出すことであった。

当該地域は温暖な気候を生かした果樹園栽培が盛んなことに加え、現在、最も注目されているサステイナブルな材料でもある木・竹材料、特に竹材料の有効活用が注目されているところに着眼した。この優位な地域特性と地域資源とを結びつけることで、他産地、他地域にはみられない新たな事業展開の可能性が確認できた。

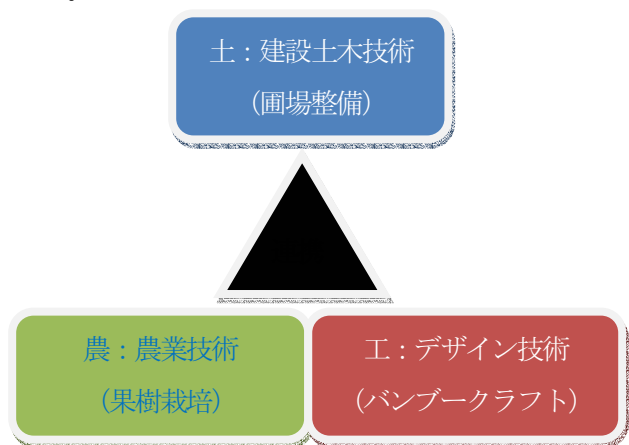


図-1 土農工連携の仕組み

そこで果樹経営とものづくり(クラフト工房)を結びつけた創作の体験と参加によって廃村直前の山村を甦らせ、活性化させることができないかと考えた。本

*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部
*2 果樹研究家(元広島県立総合技術研究所農業技術センター)
*3 株式会社瀧上組

事業は農商工連携に替わる土木建設業を新規に加えた土農工連携によるベンチャー創出事業である。

これは長引く厳しい経済状況と公共事業の減少により、土木建設業が新規活路を模索する中、廃村直前の集落における果樹栽培とクラフト工房を結び付け、四季折々の果樹栽培と収穫を体験しながら、自然な素材、材料を用いたクラフト創作活動を進める参加型、体験型創作活動である。

土木建設業は圃場整備を中心にした栽培環境の創出、設備製造業は栽培装置の開発と当該地域固有の狭隘で急斜面圃場を栽培設備と栽培装置の開発で、これまで困難であった圃場整備と、ものづくりの環境を整えることを推進する。

本事業はものづくりによって地域の活性化を図ることを大きなビジョンとしている。特に、身近な生活用品、家具、木竹工芸品などの開発による活性化は、どの地域でも実践することができるものであるが、それに加え環境を整備する力（土木建設）、農産物を育てる力（農業）、デザイン性に優れたものを作る力（デザイン）を連携させれば、サステナブルな活性化が図れるものと考えている。

今回は、廃村直前になっている山村での果樹（農産物）とクラフト（工芸品）の二つのものづくりを融合させて、人々が山村に集う仕組みを作り出すことを目標としている。その仕組みが定着すれば、山村に大きな魅力が生まれ、人々の交流、ものの交易が盛んになり、廃村に歯止めがかかり、山村は徐々に甦るものと考えている。

冬季を除いた四季折々の果樹を多品種少量でありながら、継続的に栽培して収穫できる循環型果樹栽培を行う。これにより山村の魅力が途絶えることなく、人々の関心が高まる。更に、参加者が自らものづくりに挑戦して、創作を体験することで、人々は集まってくる。

こうした考え方の基で、果樹専用のフルーツバスケット、スプーン、ナイフ、フルーツボール等を地域特性材料でもあり、サステナブルな材料である木・竹

材料による当該地域ならではのクラフト商品を創出しビジネスに展開していく。

具体的には次のような技術・製品・サービスを提供できることを目指した。

果樹・果物品：サクランボ、ウメ、ビワ、ベリー類、モモ、プルーン、ブドウ、イチジク、リンゴ、ナシ、クリ、柑橘類

クラフト商品：楔形集成材によるトレー、ボックス、サーバー、ケースなど

木材・竹材、燻竹材によるフルーツバスケット、スプーン、ナイフ、フルーツボール、バンブーコースター、サーバーなど

籾による御簾、ランチョンマット、簾コースター、一輪挿し

この製品については萩市大井の平井簾製作所からの技術移転を図り、開発できたものである。

3. 開発方向の検証

前項で開発の方向性を示してきたので、ここではその方向性の妥当性を検証してみる必要がある。

まず、広島県竹原市の某山村をなぜ対象にしてきたかを検証してみる。広島県竹原市の山村集落の実態を調査した結果、消滅集落直前の山村は10集落あり、広島県内の市町村の人口の割合から比べて極めてその件数は多い。しかも高齢化率が25%に達する2025年には、更に増加するものと予測される。

この種の状況を呈している山村は竹原市以外にも多くみられる中、具体的に地域住民から活性化支援要請があったことに加え、規模や人口減少傾向、おかれている状況を総合的に判断した。

次にものづくりの方向については木竹工芸に絞った理由として、初期投資が少なく誰もが少ない設備投資で質の高い製品が作れるメリットは木竹工芸分野であることを理解して選定した。併せて山口県萩市大井に

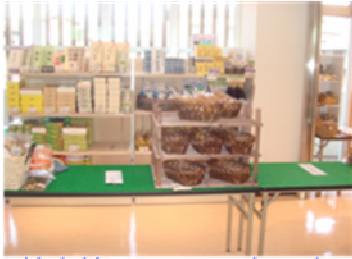
フルーツ&クラフト ビレッジ

Fruits&Crafts Village

かくや姫の
ふるさとで
山村再生

生産品目&商品紹介 (フルーツ&クラフト)

菓子製品



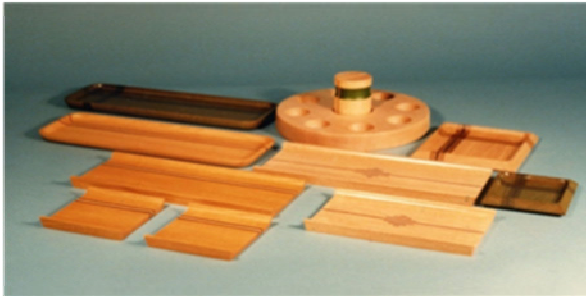
焼き菓子、シホンケーキ

バンブークラフト製品



ジャムスプーン (小、大)
竹ナイフ (小、大)
フルーツバスケット
燻し竹によるスプーン&ナイフ

クラフト製品



楔形集積技術を活用したニュー文字盆

竹籐製品



竹籐を活用した籠、マット、
コースター

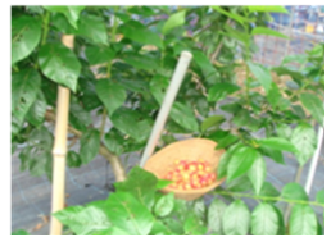
ぶどう園



ブルーベリー園



サクランボ園



フルーツ&クラフト ビレッジ

〒725-0003 広島県竹原市新庄町369 (正部)

TEL : 09046571950 (HP) FAX : 082(434)9622

図-2 創生した製品群と整備した果樹生産園場

ある平井簾製作所の^{ひご}簾製作技術を当該地域に導入し、従来の竹編組製品から組立合せ製品への展開が可能になることなどを総合的に判断した。

4. 事業の市場性

今秋、オープン「道の駅 たけはら」にて郷土のクラフト商品として展示販売を計画している。木竹クラフトの優位性と地域性を全面に出して、販路拡大に努めたい。

他地域の商品ブランドと連携を図りながら、知名度の向上を図り、商品の認知度を高め、その後、競争力のある商品に育て、市場性の向上に努めたい。

1. 平成22年10月に開業した「道の駅 たけはら」にて展示販売を展開。
2. 不定期ではあるがアルパーク天満屋（広島市）にて、ケーキ工房「カフェ&ダイニング チャオ」（三原市）と連携して、菓子、ケーキ類と組み合わせ販売計画。
3. 個展「ウッド&バンブークラフト展」を開催。（平成23年3月竹原美術館にて計画中）

5. まとめ

過疎化に悩む地域住民からの要望で消滅寸前の山村を活性化させたいとの思いを真摯に受け止め、できることから着手し、既存のものの中から有効利活用する活性化手法で支援に取り組んだ。

その結果、これまで訪問者が皆無であったのが、収穫時やものづくりを開始したときには訪問者が微増し活性化の兆しが見えてきた。これを契機に今後は定住を視野に入れた活性化活動が求められている。

一方、ものづくり技術が定着することによる活性化の度合いが顕著であることが判明した。新規導入技術により創作した製品を求めて、人が集まってくることが判明した。「集める技術」よりも「集まる技術」の重要性を確信した。

【引用・参考文献】

- 1) 大野晃；山村環境社会学序説，（社）農山漁村文化協会、2005
- 2) 地域活性化支援事務局；創ろう！売れるビジネス、中国地域活性化支援事業認定事例集，第2巻，2-8，2010
- 3) 地域活性化支援事務局；農商工連携，農商工連携ガイドブック，第1巻：4-13，2009